

船引南地区 学校運営協議会だより

令和6年3月

第7号

令和5年度学校教育活動の評価と次年度に向けた提言

去る2月9日(金)に第4回協議会を開催し、本年度の船引南小・中学校の教育活動について委員による評価(学校関係者評価)および次年度に向けた提言をまとめる話し合いを行いました。
その内容の概要を下記のとおりお知らせいたします。



小グループで熱心に協議

学校運営全般

- ほとんどの児童・生徒が、学校に楽しく通えていると感じており、大変好ましい。
- 小学校は統合初年度であるが、「新生船引南小学校」としてのよいスタートが切れたことが感じ取られる。

<提言>

- ◆ 少人数教育のよさを生かしたきめ細やかな支援の継続
- ◆ 児童・生徒が将来の職業や生き方について深く学べる学習や体験の充実



夢:学力



- 小・中学校ともほとんどの学年が各種学力テストの平均値において、市や県の平均点を上回っており、誠実に授業に取り組んでいる様子が伺える。
- ▲ 一定時間以上家庭学習に取り組むことの習慣化、余暇を利用した読書(活字に親しむ時間)の確保などに課題が見られる。

<提言>

- ◆ 小・中9年間を見通した家庭学習(とりわけ自主学習)の進め方の指導
- ◆ 教師やボランティアによる読み聞かせ、教師が感動した本の紹介などの取り組みの強化

愛:礼儀・思いやり

- 礼儀正しい児童・生徒が多く、南地区のよき伝統を感じる。
- ▲ 地域住民と接する機会が少なくなっていることから、学校外での気持ちよいあいさつに課題も見受けられる。

<提言>

- ◆ 教師・家族・地域住民による率先垂範の重視



自立:健康・運動

- ▲ メディアコントロール(スマホのゲーム等にのめり込まない自制心を持つこと)が大きな課題である。
- ▲ 中学生になると、不規則な生活で十分な睡眠時間が確保できていないことが課題である。

＜提言＞

- ◆ 子どもがメディアに夢中になっている間は「手がかからない」「安全・安心」という大人の思いがないか。もう一步踏み込んだ児童・生徒、保護者への啓発および意識改革が必要。
→PTA 行事等の内容検討も視野に
- ◆ 食への関心を高めるために、子どもがお弁当づくりをするなど料理に参加する(手伝う)経験の重視



より客観的な評価を目指して

運営協議会の各委員は、今年度も下記の事例のように様々な教育活動に積極的にかかわることを通して児童・生徒の姿を見つめることにも努めてきました。このことが、教育活動の評価をより客観的なものに行っていると感じます。また、評価にあたっては、地域の皆様からのお声も貴重な情報とさせていただいております。今後も教育活動についてのご意見がありましたら、ぜひお近くの委員にお寄せくださいますようお願いいたします。



租税教室の講師＜栗原委員＞



郷土料理の講師＜根本委員＞



座禅体験の講師＜三浦委員＞



教育講演会の講師＜佐藤朝美委員＞

編集・発行：船引南地区学校運営協議会

◎遠藤さとみ、○三浦友貴、横田正浩、吉田治、田村丈、桑原恵美子、栗原義昌、佐藤朝美
佐藤洋子、根本君江、鈴木敏夫(南小校長)、浦山裕子(南中校長) (◎会長 ○副会長)